

仙台白百合女子大学は、短期大学創設から今年五〇周年を迎えました。その歴史は、シャルトル聖パウロ修道女会のフランス人修道女が、一八七八（明治一一年）、函館で福祉活動や教育活動をしたことから始まります。以後全国一〇カ所に白百合学園の教育施設が誕生しました。一八九三年（明治二六年）、仙台市で初めて的女子学校として私立仙台女学校が開校されます。戦後、仙台白百合学園と改称され、短期大学を経て、一九九六（平成八）年、四年制大学仙台白百合女子大学が誕生したのでした。改組を経て、現在は、人間学部人間発達学科、心理福祉学科、健康栄養学科、グローバル・スタディーズ学科（以後GS学科と表記）をおく、一学部四学科体制で構成されています。

学生総数が一〇〇〇人強の小規模大学です。私が所属しているGS学科は、一学年六〇人定員ですから、全学年のほとんどの学生の顔がわかるほどです。GS学科では、英語の他に、韓国語、中国語、フランス語、スペイン語、ドイツ語の中から一言語以上を学習することが義務づけられています。そして、一年間留学をしても四年間で卒業できるようにして、留学を奨励しています。現在、提携校が八カ国一六校に増えました。

おもしろいのは、留学先から帰国した学生のほとんどが日本語を改めて熱心に勉強し始めることです。日本人が留学先で質問されるのは、主に日本の文化や日本語についてでしょうから、その経験によって自国のことを知る大切さに気づくのでしょう。身近な母語を外国語と比較し、ソトからのまなざしにより、日本や日本人である自分自身を客観的に捉えることができるのです。

グローバル化社会において、多くの人が使う、たとえば英語を勉強することは国際交流においても大切です。他方、マイノリティ——少数派の言語や文化、あるいは地域性についても忘れてはなりません。たとえば日本語の「枝豆」が「EDAMAME」、「妖怪」が「YOUKAI」、「漫画」が「MANGA」と多言語の辞書に載ったとき、その特殊だと思っていたモノや事象が、世界に

日本語検定団体受検をして

～仙台白百合女子大学人間学部グローバル・スタディーズ学科教授 大本泉氏～



大本 泉 おおもと・いずみ

日本女子大学大学院修了。現在、仙台白百合女子大学人間学部グローバル・スタディーズ学科教授。日本ペンクラブ会員。女性作家委員。ロンドン大学客員研究員（2011年10月～2012年3月）。開南大学大学院（台湾）招聘客員教授。台湾大学大学院にて講話（2016年3月）。

専門は日本近現代文学。著書に『名作の食卓』（角川書店）、『作家のごちそう帖』（平凡社新書）、共編著に『日本語表現 演習と発展』（明治書院）、『小説の処方箋』（鼎書房）、『神経症と文学』（鼎書房）、共著に『日本女子大学に学んだ文学者たち』（翰林書房）、『永井荷風 仮面と実像』（ぎょうせい）等多数。論文に「関東大震災と近代文学 —— 芥川龍之介と正宗白鳥を中心として」等々、その他、エッセイ、評論を連載している。

受け入れられた喜びを感じるのではないのでしょうか？

世界中で日本車の人気があるのはいいことですが、車をどんなに売っても日本という国のいわゆる品格にはあまり関係がないように思われます。世界から見れば小さい島国の日本語、そして日本語をとりまく日本文化を積極的にソトへ発信することによって理解してもらい、世界から愛される日本や日本人になりたいものです。

そのためにも、まずは日本語・日本文化を正確に理解することもっとも重要です。その入口として、本学では、日本語表現を入学生全員の必修科目にしています。GS学科では、専門科目として日本語学をおき、二〇〇七年に日本語教員養成課程をたちあげ、海外で活躍しているプロの日本語教師を輩出しています。

AO入試や推薦入試では、資格を取得している受験生に今までも加算していましたが、日本語検定の問題の質の良さを知り、三年前から本学でも団体受検をすることにしました。日本語教員養成課程受講者は、三級以上の合格を義務づけています。実践的な敬語の問題や、資料読み取り型の長文読解問題は、大学生として社会人として役にたつと思われれます。就職活動に必要な履歴書の資格・特技欄に、たとえば日本語検定三級取得と記せることは、自信にもつながるでしょう。

ことばは変化し、増殖もする生きものです。私たちは、コミュニケーションをとりながら生きる社会化された動物なので、その道具としても重要な日本語の勉強を一生続けていくことになりました。

日本語検定は、自分の学びにおける進化の目安となります。先に行われた第一回の試験では、四二人の学生が挑戦しましたが、今後とも後援会からも助成をしてもらいながら、日本語検定の受検を学生に勧めていくつもりです。